



「古いアルバムの中に 隠れて思い出がいっぱい」

1983年にリリースされたH₂Oの歌「思い出がいっぱい」の始まりの一節です。私の中学生時代にテレビアニメの主題歌として大ヒットしました。

古いアルバムの中に

古いアルバムを開くと、たちまち立ち上がってくる思い出があります。今日の終業式では11月の「ふるさとの昼べ」を発端に起こった出来事を取り上げ、次のような話をしました。

今、自分の隣にいるのは誰ですか？ 前にいるのは？ 後ろにいるのは？ 周りにはたくさんの友達がいます。

では、その友達とは、いつまで一緒にいますか？ 1月になっても一緒ですか？ 4月になったら？ 10年後は？ 40年後は？ 今日、私がお話しするのは、子どもの頃、自分の近くにいた友達のお話です。

「ふるさとの昼べ」で40年ぶりに再会した友達がいました。本山小学校、豊中中学校で一緒に過ごし、その後、一度も会ったことのなかった友達でした。

校内を一緒に巡ったり、運動場で昔を語ったりしながら、その中で「同窓会をしよう」ということになりました。そして、先週の土曜日、十人ほどの同級生が集まり、御飯を一緒に食べました。

今、本山小学校では、みんなが私のことを「校長先生」と呼びます。先生方も子どももそう呼びます。他の学校の先生は、「中田校長先生」と呼びます。下の名前で呼ぶ人はいません。

でも、同窓会では互いに「ゆうさん」「りょうくん」「とっさん」と名前で呼び合います。何十年間離れていても、大人になっても、名前で呼び合えるのが、小・中学校の友達です。

そして、小学校の時の、登下校の小さいたずらや、当時の教室の様子、家に遊びに行った時のことなどを、延々と語り合いました。友達の発する一言一言が、昔の記憶を思い起こしました。まるで、子どもの頃からのお気に入りの童話のように、数十年前の思い出が、温かく、懐かしく、昔を語りました。

その昔話は、昔からの友達とだからこそ、始まり、進み、完結するものでした。

「こんなことあったよね。」

「そうそう、そしたらだれそれさんがこんなことをして…」

「結局、先生に怒られたよね。怖かったよね」

子どもの頃のとりとめもない出来事が、大人になると大笑いする思い出に変わっていることがあります。失敗して、とてつもなく恥ずかしかったことこそ笑い話になります。今のみなさんは、その楽しい物語を作っている真っ最中です。数十年後、どこかで、今、隣にいる友達と出会い、笑って、小学校時代を語り合えるとしたら、それはとてもいい人生だと思います。

右は旧本山駅舎で撮影した、中学校卒業時の記念写真です。同窓会では、一人一人の顔を見ながらいつまでも語り合いました。

それぞれ違った場所にいるのだけれど、駅のホームのように戻ってきた時に安らぐ場所、それがふるさとです。



【旧本山駅舎前にて（1985年 豊中中学校卒業アルバムより）】